

令和2年度第1回城陽市総合教育会議議事録

令和3年（2021年）1月19日（火） 午前10時から

令和2年度第1回城陽市総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和3年(2021年)1月19日(火) 午前10時から
- 2 開催場所 市役所本庁舎2階第1会議室
- 3 出席者 市長 奥田市長
教育長 北澤教育長
教育委員 崎川教育長職務代理者
小森委員
大戸委員
岡田委員
事務局 藪内教育部長、藤林教育部次長
松本学校教育課主幹、木村教育総務課教育総務係長

4 日程

1) 城陽市GIGAスクール構想について

5 会議内容

(1) 開会

木村教育総務係長：それでは、定刻になりましたので、総合教育会議のほうを始めさせていただきますと思います。

まず初めに、市長のほうから御挨拶がございます。

奥田市長：皆さん、おはようございます。総合教育会議でございます。開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

1月に入りまして、いまだ御案内のとおり新型コロナウイルスの収束が見通しが立たない。まだ世界中で猛威を振るっているというのが現状でございます。実際、城陽市のほうも年末ちょっと前は安定していたのですが、年末、お正月を挟んで急に増えてきまして、もう二桁とっていたのが今もう三桁で、140になってもう、昨日は久しぶりに城陽はゼロでしたので、このままだと思っているのですが、京都も厳しいですし、どうぞ皆さん方におかれましても、十分気をつけていただきたいと思います。

総合教育会議につきましては、今年度初めての開催となりますが、本市教育行政の推進のため、本日の会議におきましてもこれまで同様、忌憚のない御意見を賜ればと思っております。

本日の会議でございますが、城陽市GIGAスクール構想について御議論いただく予定でございます。広報じょうようでも大きく取り上げましたが、本市では京都府内でいち早く小・中学校に対し、いち早く、一番です。はっきり言って一番でこの全小・中学校に対してのタブレット端末を1人1台配備し、ネットワーク整備も一体的に行ったところでございます。私といたしましては、今この城陽で暮らす子供たちが立派に成長し、これから迎えるグローバル化社会の中で未来の作り手として輝きを持って活躍していることを願っております。ICTを活用して子供たちの学びの保障を図っていきたいと考えているところでございます。教育委員の皆様におかれましても、本市のICT教育に対してそれぞれ期待をされている点がおありと存じますので、ぜひたくさん御意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

(2) 日程に基づく議事

1) 城陽市G I G Aスクール構想について

木村教育総務係長：ありがとうございました。では、早速ですが議事のほうに入らせていただきたいと思います。進行のほう、よろしく願いいたします。

奥田市長：それでは、次第に従いまして議事を進めさせていただきますので、議事進行に御協力をお願いいたします。

お手元の資料に基づきまして、まずは教育長から説明をお願いいたします。

北澤教育長：おはようございます。教育委員会の業務につきましては、学校教育、青少年の健全育成はもちろんのこと、生涯学習、文化芸術、スポーツの振興と大変幅広く所管をしているところです。その業務のよりどころといたしましては、教育大綱がございまして、計画の期間を5年としておりますので、来年度が最終年ということとなります。内容につきましては、第4次の城陽市総合計画で示しているところがございます。そのことを踏まえまして、本日の協議につきましては、学校教育をテーマとし、本年度までの事業実績、これをベースにして来年度におきまして城陽市の教育の構想として特に重要な5つの項目を具体化させていただきました。配付資料の最初に、子供の未来輝きプラン2021というのがございますので、御覧ください。これは、教育委員会が学校に対して設置者として行う指示・指導や教育環境の整備等、重点事項をまとめたものです。本プランのコンセプトといたしましては、未来の教育を創造し、展望し、令和の時代にふさわしい力を育む授業としてあります。もう一つ、次代を担う子供が夢を感じる城陽市ならではの教育の創造ということとしております。

1つ目でございます。本市のG I G Aスクール構想です。ICT教育を推進し、デジタル化社会に対応できる能力を身につけるといってございまして。

2つ目ですけれども、グローバル化社会への対応ということで、英語教育の推進に努めるというものです。世界的なコロナ感染の関係でA E Tの来日が遅れておりますが、収束に向かえば10名体制となり、一層の充実が図れると考えているところです。

3つ目ですけれども、中学校の水泳指導ということで、民間の施設や指導者を活用し、教育効果を向上しようとするものです。これもコロナ感染が収束すれば実現するものです。

4つ目ですけれども、幼稚園教育です。有識者の提言を踏まえ、改革を実行し、特に3歳児保育では現在、15名の申請があるということで、成果として表れてきたところです。今後、まだ残っております課題、給食の提供ですが、これにつきましても実施に向けて取り組んでいこうとするものです。

最後、5つ目になりますが、開かれた学校づくりということで、地域の方々の学校支援や教育への参加協力は、これも従前から行っているところですが、しかしながらその効果については我々としては観察とか手応え、そういったものしかございませぬ。地域の方々とのつながりが子供たちにどういった教育効果をもたらしているのかを科学的に調査研究し、その結果をもってより一層、社会総がかりの教育を進めていこうとするものです。これにつきましては、1つ目のICT教育の推進とセットで考えているものでございまして、デジタル化社会への対応だけでなく、人と人とのつながりや交流を大切にする教育も同時に進めていこうとするもの

です。知識や技能だけでなく、人間らしさを併せ持つ人材を育てていきたいと。こういったことを考えているところです。

全体の重点事項というのは以上のとおりでございます。それでは、先ほどのICT教育ですが、将来を担う子供のためにと市長の御英断もございまして、相当の財政投資も賜りました。京都府では最も早く適切に整備を終えたところでございます。現在、学校現場での活用の段階となっております。進捗状況、あるいは詳細につきましては、担当のほうから説明をいたしますので、その後、様々な御意見等、御協議をお願いしたいというふうに思っていますので、どうかよろしく申し上げます。

以上でございます。

松本学校教育課主幹：それでは、私のほうから動画をもとに城陽市のGIGAスクールの状況について御説明させていただきます。前のスクリーンを御覧ください。パーテーションで見にくければ見えやすい位置であったり、パーテーションのほう御移動をお願いしたいと思います。途中止めながら説明もさせていただきます。

まず、1人1台端末の実現ということで、市長、教育長の挨拶の中にもありましたとおり、12月末で全ての学校に配備がされました。モデル校につきましては10月末に配備され、活用が先行的に始まっております。児童生徒のみならず、教職員につきましても1人1台の端末を配備しております。通常のiPadになりますと、私どもが使うような軽いものになりますけども、子供たちに配備しているものにつきましては、お手元にありますように非常に分厚くて重いカバーがついております。落下しても少々壊れるものではないというもの、また併せてカバーキーボードもついております。タブレット端末の画面に直接タップしたり触れたりするだけでなく、キーボード入力することもできます。また、ペンがついてございます。充電式のペンでありまして、これも1人1つを実現させていただきました。様々な学習用のアプリケーション、立ち上げていただいたらたくさん見えるかなと思いますけれども、学習であったりとか、また友達との協力作業等で使えるもの、また遠隔授業等にも対応したアプリを今回の1人1台端末の実現において導入させて頂きました。

また、周辺機器でございます。これまで中学校でなかなか整備が進んでいなかった大型モニターも、この9月に全て完了し、市内小・中学校全ての普通教室で大型提示装置が実現できました。また、アップルTVという画面を映し出す、今現在私のはこのノートパソコンからこの線を通じてプロジェクターで映しておりますけども、無線で飛ばすことができる。もちろん音も無線で飛ばすことができるこのアップルTVということで、御自宅ではよく映画の視聴であったりとか、そういったものに使われておりますが、教育用の子供たちや先生方のタブレットからそのままテレビに映し出すことができるというものでございます。

また三脚ですけれども意外と使いどころがたくさんありまして、遠隔教育以外のところの授業場面でも使える。とりわけ実技教科等でいろいろと使えるということで、これも普通教室に全て導入していくというところでございます。

続いて、オンライン授業の環境整備ということで、モバイルルーターにつきましては必要家庭数を10月に調査し、学校にもう既に配備しており、臨時休業等の緊急事態の際にはすぐに配付、活用できるようにしているところでございます。また、その他、必要な環境等を備えております。また授業だけではなくて、校外学習等でも実施できるような環境整備をしています。それらは実践事例ということで、モデル校の紹介をさせていただきます。

まず、西城陽中学校、児童の音声、生徒の音声も入っておりますけども、少しお

聞き苦しいところもありますが、機能面も含めて活用状況について説明させていただきます。大きくテーマとしては時間とか距離の制約を取り払って、また子供自身も教師も客観的にいろいろ見ることができて、また共有することができるというものでございます。まず円周角。これは今先生がタブレットの手元で課題を配付するところでもあります。一瞬で子供たちの手に渡って、手元に届いたらすぐ取りかかれる。これまででしたらプリントの配付だけで数分要して、1枚足りへんとか余っているとかというところで結構時間を要していたものが一瞬でできると。先生がここにデータを今映したところです。押した瞬間にもう子供たちの作業が始まる。ペンで直接書き込みがされていると。今、提出する先を選んで先生の指示でみんなのデータを集めているところです。先生が集めたデータをもとに子供たちが書き込んだものでございますけども、ここに投影、映し出しまして、説明できると。書き込みがここでされている。ここに線を引かれますけど、これまででしたら、子供たちに直接黒板に書かせに来させたり、ホワイトボードに書いたものを前で見させたりということでしたけども、非常に時間とか距離の節約ができる。これ、非常にいいところは、書き込んだものを消すことができると。今まででしたらプリントを何枚も使ってとかというところが、消して自分が納得できるように、理解できるようになるまで何回もできるというところが利点です。この子は納得しないのですね。教えてもらったことに対して友達も協力して説明してくれる。またやり直しているのですけど。これまででしたら、紙に書いたら終わりというところで止まっていたものが、消してやり直しができるということで、そういう機能を使うと何回でもやって自分でもっとチャレンジしてみようというところが、自動的にiPadでしたら実現ができてしまうというものです。

続いて、中学校、証明の問題です。証明でいきますと結構書き込みがたくさんになって5行、6行がもう普通になってくるということです。先ほどとちょっと違う形での使い方になります。配付されたプリントにこれまでどおり記入していく。タブレットに記入していくとどうしても書き込みの動作たくさんあるのでふさわしくないということで、撮影という機能を使って授業を進めていくことになります。この撮影したのも提出することができますので、授業の内容に応じて使い分けすることができます。もちろんデジタルですので、何度も撮り直しが可能と。誰でも簡単に提出ができ、このあと提出したものについてお互いに見合うことができる機能も備えておりますので、この子はこの後友達の考えを見ていくことになります。一覽で見てももちろん拡大もできますので、見えにくいものは画質を落とさずに大きく映し出すことができます。ほかの子と意見が違ったので、どうしたものかなと悩んでいて、自分の考えを見詰め直しているところで、単に答えを書いて出せばいいということではなくて、考え方を重視した授業をすることが、机のその場所にもできる。

続いて、富野小学校5年生のマット運動になります。これはもうシンプルに動画を撮る。撮ったものをその場ですぐ見れる。これを見て自分の演技がどうだったかというのが、自分の目でも客観的に見ることができる。もちろんお互い使い回して見ることもできます。これ、マットのシンクロ運動、表現運動の一つということで、全体を今ここでこの子が撮っているわけです。非常にばらばらな状態なのですが、タブレット端末があることで今後どうしていったらいいのか。スロー再生や繰り返し再生、もちろん一時停止もできますので、目的に応じて使い分けていくことで自分たちの技能を上げていくことができる。

続いて、今回導入したデジタルドリルでございます。富野小学校は朝学習で基本

使っているということで、その様子を一部お見せしたいと思います。自動採点機能がついておりますので、この子は正解して非常に喜んでいてところで、10分間集中してこのような状態で取り組んでおります。

次の動画は、これは1年生が操作している画面になります。単に自動採点の機能だけではなくて、AIとまではいかないのですが、苦手、得意内容の提示が自動的にされる。専門的な用語で言うとアダプティブ、近づけていく、接続していくという用語になるのですが、そういったものを提示してくれます。この子は今から苦手なところを踏まえて、できなかった苦手をなくそうというところからここに出ているのですが、もちろん得意科目の内容も出てきますので、そういったものを自分で選んで自分で進めていく。この子は苦手をなくそうを選んで、数の並べ方をしています。すみません。ここかぶっていてちょっと見にくいのですが、過去の点数もちょっと出ていて、どうだったかな。もちろんレベル別のものも表示されております。選んで自分で問題を解いていく。もちろんその場で瞬時に丸つけをしてもらえる。分からないときにはヒント、動画等があるというものです。答えがあっっていて全部解くと、学習履歴が分かるということで、過去何点だったか、それぞれの問題で、まだやっていないところは空白になります。そういったものを見て、じゃあ自分が次、どこをどうしていこうか。この子はもうやっていないところを挑戦するため選んでいくというふうにしていきます。もちろん学年の壁を越えたりとか、今現在習っているところ以外のところでもできると。富野小学校さんは朝学習で使っているということでしたけども、久津川小学校さんはすき間時間、いわゆるもう早く課題が終わった、やることが今まで読書しかなかった。また宿題を取りあえずやってもいいかなというような時間やったものが、こうやって自分で学びを進めるということもできるというのが利点でございます。

続いて、国語でございます。お気に入りの場面を見つけようということで、途中になるのですが、この子は自分のお気に入りの場面の画像を取り込んで、その理由を書いております。合わせ技みたいなのが子供は小学校1年生で、自分でできちゃうというところ。中学校3年生がやっていたようなものが今、小学校1年生でできるというところ。同じように、このあと課題の提出があります。課題提出されたあと、このようにカラフルなシートなのですけれども、共有したものを見ることができる。この子はこのあと振り返るのですね。私が撮影しているからじゃなくて、書いている子のほうをちらっと見ます。この子こんな書いていたよねと。このあと先生が、その動画は少しないのですが、意見交流の際にその子のところに行ってどうしてこうやったのかというようなことをお互い質問し合うように交流する材料となっている。良い意見のところ、自分がないところ、違うところについては注目して読んでおります。

続いて、久津川小学校の外国語スピーチです。もちろんしゃべることが中心にはなりますけれども、iPadで事前にキーワードになるようなものをこれは文字入力、英語で打ち込んでおります。またそこに合わせて手書きでも書くことができるので、表現の幅が非常に広がるというものです。

続いて、プログラミング教育です。一般的なプログラミング教育で正しい指示を組立てていこうということで、小学校ではコードを打ち込むのではなくて、ブロックで指示を出していくと。真っすぐ進む、止まるとかというのが正しく組立てられないと、思いどおりに動きませんよということでやっておりました。また、今年度城陽市はNTT西日本との連携事業でプログラミング教育をやっております。資料のほうを一部お見せさしてもらいたいと思います。まず、AIとは何かというのは

大人でも説明できないところが多いかと思えます。そういったことはかみ砕いて実物とかを使いながら説明してもらいます。単純にいっぱいコンピューターに学習をさせて学ばせていって、それを使っていけるものであると。こういう中身になっていますよ、A Iの中身はもうコンピューターの専門的なことにしかかかっていないという話はよくあるのですけども、こういう指示系統になっていて、何かあったら分岐ができるというようなことで指示がされているというものです。そういったものがこういう会話のロボット以外にもいろいろなものがありますよということで、生き物集めのアプリを使って体験をしていくということになります。これも非常にシンプルな中身で、とったものは学習させたもので判別をしていくという。実はA I難しくないですよ。簡単ですよ。そういったものでいろいろな製品が今、開発されていると。皆さんもそういうアイデアを大事にしながら、自分たちでこんなものがあつたらいいなというのをちょっと考えてみましょうというのが、今回のプログラミング教育、創造性を働かせる部分の教育になります。こういった困っていることを解決するためのフローチャートづくりをしてみようということによってやっております。こちらは資料等は用意できなかったのですが、一つ紹介させていただくと、小学校6年生が朝カメラを部屋につけておいて、自分が寝ているか起きているか判別してくれて、起きるまでアラームであったりとか声かけをして起こしてくれると。起こしたあとは、その自分の体調に合わせた朝食だとか、また外気温に合わせた服をコーディネートしてくれて案内をしてくれるというようなものがあればいいよねというのを考えています。そういったものをフローチャートで表しております。

今後でございます。もちろん授業外のことでも活用はどんどん広がっていきます。例えば、これもライブ配信でさせていただきました。どの学校でもできる状況にはあります。これは先生方の研修でございます。北城陽中学校を会場に実施したものをこちらの画面を配信して、こちらのほうに音声が届くようにしてあるのですけども、別の中学校でも先生方全員が一斉に受けられるというライブ配信になります。こういったものがあると講師の先生がわざわざ行かなくてもできる。また、生徒の交流会でも使われました。というように、このあともああいうようにオンライン会議ができる環境が整っているということでございます。

来年度でありますけども、全ての学校ではありませんが、全国学力・学習状況調査、これ小6・中3が実施するものでありますけども、一部オンラインでやっているというような動きがあります。今後こういったことが拡大していくということで、文科省も提示をされておられます。

続いて、学校の情報化、今後でございます。今現在、職員室と先生方が持っているi P a dでの情報の共有ができるようにしております。これによって様々な時間とか距離の制約が取り払われて、より効果的・効率的な学習が、授業が実現していくということと併せて、先生方の働き方改革に寄与するような研修等も実施できるというものです。オンラインやクラウドを使うことによって、例えば現在思案しているところがございますけども、オンデマンドの研修、ビデオを個別で見えておいて、来週までにこれを見ておいてくださいね。先生方も出張や会議等で多忙でありますので、それぞれの時間を使いながら端末ネットワークを使って研修できていけるということで、30分程度、非常に著名な方なのですが、来ていただくとなったら非常に金と時間との調整が難しいのですが、こういったものが簡単にできるようになってきます。こういったものも進めていって、先生方の指導力等向上に努めていきたいと考えております。

続いて、そういった環境や教師の指導力を合わせてオンライン授業ですね、もちろん長期の臨時休業の対応のときのみならず、別室での対応ということも可能になります。ただ、これができる環境はありますけども、本当にその子にとって必要かどうか。また教室でみんなが授業を受けていたり、また今後の進路のことを考えた上での環境が必要になるかなと思っています。選択肢が増えたということで、御理解いただけたらと思っています。

このような環境をたくさん構築したところではありますけども、やはり最後はどのような授業を目指すのかということ、アナログな部分とデジタルの部分とうまく組み合わせる必要があると。同じぐらいの子供たちが主体的に学習に取り組めるよう、またその主体的が結果や子供たちの成長につながるように考えていかなければならないと考えております。

お手元にあります情報化推進計画もそれを目指したものでございますので、またこのあと御意見等を頂けたらと思います。

ありがとうございます。以上でございます。

奥田市長：はい。御苦労さまでした。

今、教育長からのお話とか松本主幹が現状、我々まだまだその子供たちの、私自身教室へ入っていないので、実際どのような形で行われているかというのが。画面を通して、画像を通しては何となく分かっているのですけれども、何かすごく多様性のこの機能を十分使いこなせたらすごいことができるのじゃないかなという感じはしていますし、比較と言いますか、どうしても私らが小・中学校で受けてきた学習内容、形態等を思い出しますと、もう全然天と地の違いがあるような、もうすごいITの進歩だなということを考えています。難しい操作を私たちは感じているのですけども、子供たちというのは吸収が早いですよね。もう一回何か覚えたら、もう忘れずに次の展開へ入っていく。私ら新しいことを覚えたら、次に行ったときには、その前にやっていたのはどうやったかなというようなことがあるのはちょっと、こういう機器を通してそれだけについていけないというような面があるのじゃないかなとは思いますが、子供というかも就学前の子供でも、学校へ行かなくてもこういうの渡しておいたらパパパッとして覚えているというのは、うちも孫がいるのですけど、私より力あるなと思ったりするぐらい吸収が早いので、いいこういうタブレットを使って小・中学校の子供たちが力をつけてくれたらいいなと思っています。いろいろ課題も出てくるとは思うのですけれども、城陽市としてはやはりこれからのグローバル化社会、デジタル化社会、政府も新しい省庁を作ることを行っていますので、デジタル庁。これからやっぱりそういう時代に入ってきているんじゃないかなと思いますし、城陽の未来を創る子供たち、全国に誇れる人材育成につながるということは、私は非常に大事だと思っています、教育の重要性、城陽のまちづくりには、しっかりと政策としての打ち出しをやっていけたらと思っています。

今回のこのタブレット整備なのですけれども、既に御存じ頂いていると思いますが、先ほど挨拶の中でもちょっと言わせていただいたのですけど、京都府内ではこの整備、教育委員会の皆さんのお力でもう一番早く整備していただいたというのは良かったなと。昨日たまたまいろいろな話、以前にもお話ししたと思いますけども、京都府の教育長、橋本教育長は城陽の人ですので、小さいときから城陽に、私も小さいときから知っていたので、北澤教育長は城陽高校でも同級生やっているので、非常に親しみがあるので話していたら、確かにこのタブレットの件で城陽、一番早く整備してもらったということで、そういう評価もしてくれてはりましたしね。良かったなとは思っているのですけれども、これからのまちづくりの中でこの

財政的なことを言いますと、これを整備するのは非常に厳しいのですよね。だから、それがやっぱり今の教育委員会が非常に知恵を絞っていろいろと子供たちのために何をどうすべきかと精査してくれている中で、たまたまこのコロナ禍が入ってきましたので、政府からの臨時交付金というのが入ってきているのですけども、これは城陽の、国がやって府がやり、そして市がやるという三段構えになっているのですけれども、大枠は国が決め、京都府からそれを通して市にそういう交付金が入ってくる。だけど、その使い方でも、行政が担当していたらやっぱりもう、幅広いのですよね。360度いろいろもう福祉から何と言うのですかね。一般の市民生活、いわゆる教育委員会と言うたら社会教育に当たるほうになりますかね。そういうふうなのとかね。もういろいろなところにそれを御商売をやっておられる方の商工関係とか、そちらのほうにもその割り振りを考えている中で、何としても子供たちのその教育委員会のほうのこの考えてもらっているこのタブレット政策に持っていきたい、何としてももうこの際、いろいろなことが学校で授業もできないことや、いろいろなことも考えられるので、思い切りここに投資していこうと。そういうふうな教育委員会、強い考え方に私ももちろん市長をやらせてもらってからは教育に対する力をしっかりと注がんといかんという思いがありましたので、それは非常に考え方の合意がありまして、ただ、全部その買い込むのにはやっぱり財政的に苦しいのです。ないのです。はっきり言って。それをどういうふうにして作っていくかという。みんな知恵絞ってくれまして、幸い城陽市には未来まちづくり基金というのがありまして、これは学校教育、教育以外にも施設の面でどうしても今、新名神が令和5年度に開通するのにあわせて、気負いすることなく、これ千載一遇のまちづくりのチャンスやということで、いろいろなことを同時並行でやらせてもらっているのです。それでもいわゆる起債と言いますか、そのいる金は借金して後年に渡って分割して利用してもらうのは、30年、50年ずっと、例えば道路一つにも使用できるわけなのですけれども、借金できないものがあるのですよ。自分のところの金でやれというのがあるのですよね。例えば今、JRの複線化、それから踏切の拡幅、久津川のおそこね。今もういけますよね。あの拡幅の費用は言うたら悪いのですけど、めっちゃ高いのですよ。あれ。JRが工事してくるので、それに対して支払いは市がやるのですよね。青谷駅も今やらせているのですよ。青谷駅、令和4年に新しい駅舎できるのです。そういうふうなのは、これはもう自分のところの金でやらんとあかんというような。だから、非常に厳しいその財政というか、借金ができなくてもやらんといかんというのがありまして、だから、そういうことから考えるときに、まちづくり基金というのは文パルのセール・アンド・リースバックというの御存じやと思いますけれども、あれは一種のリースで、一応文パルを売却して、それをリースで今使っていて、これ25年契約で25年後にはまた城陽市のほうにという。だから、使用形態としては全く変わらないという、そういう契約ですので、そこで得たいいわゆる売却益と言いますか、その80億を使いながらのいろいろ今の町のこれからの未来に関する投資をしている。80億といっても、この教育委員会ではあまりこの話していると時間ないのですけども、いわゆる基金として今持っているのです、それはまちづくりの基金やけども、私はまちづくりというのは人づくりやという考え方で、ただ、子供の教育にも絶対これは使うべきやということで、議会も賛同してもらったのです。そのお金を使って、一部ですけどね。まだいわゆるコロナからの給付金とか国からの補助金、いろいろあった中で、そういう未来まちづくり基金も使わせてもらって、全小・中学校へのタブレット導入ということを決断させてもらったという経緯があるのです。いろいろその辺の話をする御存じの

教育委員の皆さんには今、子供たちが使っているこのタブレットの原資は、このまちづくり基金も投入されているのだということをお頭のなかに入れておいてもらったらなと思って、その思いで子供たちの成長、未来のこれからのまちづくり、つくり手、全国に誇れる人材というものを育てていきたいなという思いでやらせてもらっていますので、ちょっとそれは御理解いただけたらと思っています。

今、教育長、あるいは事務局から説明がありましたGIGAスクール構想について、教育委員の皆さんからも何か御意見がありましたら発言していただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

北澤教育長：私のほうから、これ、ハード面の導入は一番早くできたのですが、その今見た映像というのは、11月か12月か今よりもうちょっと以前のあれなのですね。当初その先生方が使えるのかどうかとか、いろいろな面で心配はしていたのですが、意外と想定していたよりもその活用が早いというのが正直なところで、ここまで小学校1年生から中学校まで早く活用するというのはちょっと想定外なところがあったのですが、学校のほうでそれなりに努力していただいたとは思いますが、ちょっとそのうまく早く進めたというのはどういうところらへんが良かったのかな。ちょっと分からないのでお願いしたいのですが。

松本学校教育課主幹：活用の目安としては1カ月以内ぐらいで全校児童生徒、先生方を含めて活用ができています。できた要因としては、各校からの推進リーダーを2名校長先生から推薦していただいております。10月に導入前研修ということで、事前の予備知識であったりとか、実際にこの端末を触って今子供たちが使っているアプリで課題の配信であったりとか、提出であったりとかを体感していただきました。そういうイメージを持っていただいて、各校でも伝えていただいていたところ。また、端末が入ってからそういった検証を適宜していただいている。検証していただくためには材料がやっぱり必要であると。初めてこういう、私も昨年に初めてこの端末を触ったわけなのですが、どこに電源があってどこを触ったらどうなるのか。さっぱり分からないことが多いという方たちのために、個別で見れる動画も用意しておりました。基本の使い方であったりとか、またアプリの基本の使い方も含めて研修動画を様々用意させていただきました。そういったものを個別であったりとか学校でそれぞれ活用していただいて研修していただいております。また、9月補正で配備させていただいたGIGAスクールサポーター、小・中も含めて週1回プラスで行っていただいております。そういった方たちのサポートを含めて先生方の不安解消であったりとか、また研修のサポート、また慣れない方が多ければもう研修の前に立っていただいて進めていただいていると。また、他校の情報の共有も今できる仕組みになっておりますので、そのデジタルでの共有をすることによって進んでいるのではないかとこのところでございます。

以上です。

奥田市長：今に関連して何か御発言ございませんか。

小森委員、どうぞ。

小森委員：ありがとうございます。今のお話で、GIGAスクールサポーター等の導入があったとのことなのですが今見ていると小学校が週1.5回、中学生のほうは週1回となっていますが、この回数で、回数というか日にちで足りている。十分対応できているものなんでしょうか。それとあとこれを導入することによって先生方というのは楽になったのか。以前よりも大変になって今、働き方改革の部分でやっぱりこう、時間をあまり延長して残業しないということになってはいますけれども、そのあたりはどうかちょっと教えていただきたいです。

奥田市長：どうぞ。松本主幹、お願いします。

松本学校教育課主幹：2点お答えさせていただきます。

まず、GIGAスクールサポーター、本市は小学校にはICT推進マスターが月2回、いわゆる週0.5入っております、小学校には週1.5サポートしていただいております。中学校は週1回ということでございます。もちろん、学校にとっても毎日来てくれたら非常にありがたいのはありがたいですけど、本当に専門的な知識を有しておられる方で、報酬等も非常に高額になってくると。また、いろいろ情報やデータの共有もできるということで、週1回にいただいていると。文科省のほうの講師についても、これは示し方が少し違いますけど、4校に1人配置できたらいいような言い方になっております。城陽市においては、5校に1人配置で非常に近い値にはこのGIGAスクールサポーターの配置がなったということで、もちろん現場の先生にとっては、まだまだもっと来てもらいたいとか、サポートしてほしいという要望あるかと思いますが、文科省の方針に沿っては近い値になっているのではないかと考えております。

また、先生方の働き方改革の関連でございますけども、もちろんこの研修等が増えるということで、一部帰りが遅くなったりであったりとか、会議回数が増えたり、また授業での心配や不安が増えるというのはもちろんあるということはもう承知しております。そのとおりであると。ただ、これを分かっていたら、理解して活用していただくと、子供たちがもう自分でこのようにタブレットを使っていってどんどん学習が進められると。今までは先生の指示があるまでずっと待っておかなければいけなかった。ところが、何回も繰り返してやったり、友達の意見も自分で見ていって、あの子の意見をもっと聞きたいとか、ここってどうなのっていうところが進められるということで、授業の質が上がってくると。また、データの共有であったりとか、データの共有は今まで完全に分断されていたものが、タブレット端末があることで教室にいても職員会議の内容であったり打合せ事項が見れると。今まで戻って確認したりとか、ここの特別教室が空いてるかなといったところが減ってきていると。緊急を要すればタブレットを使って通話もできるというものがありますので、機能を分かっていたら働き方改革に非常に効果的に寄与するものであるということで考えております。これはその機能を理解するところまで今研修が本年度や来年度当初でどうしても必要であるというところでございます。

小森委員：ありがとうございます。

奥田市長：確かにね。マスターするまで、マスターしたら、全体が分かってきたら、もう有効に活用できてというのがいろいろ考え出てくるでしょうね。子供たちは、例えば今日学校へ行ったら、タブレットというのとはどんな関わりを今しているのか。一番ベースの学校の状態やけれども。

松本学校教育課主幹：モデル校につきましては、もう11月から活用が始まっておりますので、小学校では登校したらもう自分たちで電源保管庫から取り出して机の上に置いて朝学習の準備であったりとか授業の準備を始めています。もうほぼ1日机の上にある状態で、給食の時間が来たら保管庫に戻す。ペンの充電も少ししてみようということであったり、帰るときには保管庫に完全に戻していくというような。小学校はそういうふうな活用が非常に多いと。いつでもどこでも使えて、もうまさに文房具のような取扱い方でされておられます。

中学校につきましては、いろいろ指導の面もございまして、教科によって使う・使わないもあるということで、授業の開始と終わりでそれぞれ充電保管庫から出し入れするというような形になっております。これも今現在、模索しながら進め

ているところでして、一度子供たちに全部預けてみようかというような学校もあったり、今、様々な動きになっているところでございますけども、子供たちは非常に親しみ持って違和感なく使っているというところです。

奥田市長：イメージ的に、子供たちは常に机の上にタブレットを用意していると。それを授業中でそのずっと使うのじゃなくして、普通の授業と言ったらおかしいかな。授業があって、で、タブレットを使うときもあるという。そういう理解の仕方でのかな。

松本学校教育課主幹：はい。おっしゃるとおりでして、もちろんインターネット検索であったりとか調べ学習等で使う時間が長いものがあれば、先ほどの数学の証明の授業のように、ほとんど紙で書いて提出と共有だけデジタルで見えておいてまた振り返り等はまた紙に書いたり、問題等は紙に書いたりというようにデジタルとアナログの上手な使い分けをまた考えていただいているところでございます。

奥田市長：それは先生の裁量によるわけ。今、小森委員言わはった、その授業するときのそのプランというのは、それは行き当たりばったりではないやろうし、もしやる時はこう指導してこのときはこれ使うんやと。そういうふうなことを事前学習してはるわけね。その辺はまた、もう慣れてきはったら、臨機応変にやらはると思うんやけど、ただ、働き方改革で小森委員言わはったように、そんな準備しようと思ったらまた余分な時間かかってくるやろうけども、それがだんだん慣れることによって、また繰り返すことによって要領とか段取り、時間配分とか分かってくる先生ができてくると。そういう考え方で。

松本学校教育課主幹：おっしゃるとおりです。よく言われるのが、授業がうまい先生、この活用する仕方も非常に上手であると。タブレットを今まで触ったことなくても、この機能をどういうところで使ったら有効とかすぐ発想、イメージが湧かれるので、そういうところの研修等もこれまでデジタルの要素を授業の研究の際にあまりなかったのですけども、取り入れることで効果的な活用ということができるといことです。

奥田市長：なるほどね。効果的な活用ね。ぼやっとしているけど、だんだんちよっともう分かってきたような気がするので、ほかに御意見ございませんか。

崎川委員、お願いします。

崎川教育長職務代理者：今、小森委員が私も疑問に思っていたことを御質問いただいたのでそこは飛ばしまして、ちょっとハード的な部分で、もうすぐに卒業生がいて新入学生が3月、4月、そうすると、このタブレットというのは、一旦市に返していただいて、それを再転用で新しい入学生に渡していくのか。それと、これ自身が一体何年を1つの耐用年数として見ておられるのかなと思ひまして、その点教えていただけたら。

松本学校教育課主幹：まず、子供たちの端末の取扱いになりますけども、卒業生はもうこの端末は新入生に回していくという扱い方で、もちろん在校生は進級と同時にこの端末を自分で持ち上がっていくと。端末に今、番号であったりとかお名前が貼ってあります。学校によってこの扱いは様々などころではあるのですけども、自分の物ではないのですけども配備して、大事に使いなさいよという意識も込めて、学校でいろいろ工夫はされて、この渡し方等をされております。そういう扱い方になっております。もう1点は。

崎川教育長職務代理者：耐用年数、例えば5年で切り替えるのかとか、その辺はまだ今検討中だとか。

松本学校教育課主幹：そうです。はっきりとした数字で示されてはいないのですけども、

この端末が壊れた際の保守を4年間契約でしております。もう電池の消耗であったりとか、それは何度でも無償で交換してもらえます。また、子供たちが壊すことも想定されますので、画面が割れるとか携帯でもあると思うのですが、こういったものも1台当たり年2回交換できるというもので、4年間この契約をしておりますので、耐用年数という答えにはならないのですが、4年間はこれは活用はしていけるという算段でございます。

崎川教育長職務代理人：すみません。もう1点よろしいですか。

奥田市長：崎川委員、お願いします。

崎川教育長職務代理人：申し訳ないです。4年後、やはりこういうものは一旦古くなっていきますともう全然使い物にならない場合が多く出てくるので、その点で予算措置も大変かと思うのですが、よろしくお願ひしたいと思ひます。これは希望としてのお願ひとして発言させてもらいたいのなのですが、やはり私らから見ますと孫のような小学校1年や低学年生ですね。いっぱい荷物を持って学校へ行く。そのときにかばんに一つこれをもって行けばそれで済むのだという状態がもしできるのであれば、子供たちのランドセルの負担がぐっと減ってくるのじゃないかなという。例えば、今日帰って勉強したい、または宿題が出たという時に必要な教科書だけを持って帰るとか、逆に持っていくとかいうその最低限の荷物で済むような方法が今後、数年かかってとっていただけたらうれしいなと思ひますので、そういうお願ひもしておきたいなと思ひます。

以上です。すみません。

奥田市長：なるほどね。これね、今、子供たちは教科書はいつも持ち運び、置いている学校もあるのですか。

松本学校教育課主幹：置いている学校もございます。

奥田市長：置いている学校もある。もうほとんどが置いている。それでも持ち帰りしている。

松本学校教育課主幹：いわゆる算数や国語などについては、テスト勉強等もあつたりしますので、家庭学習等もありますので持ち帰っているものもございませぬけど、置いておいて支障がないようなものについては学校判断で考えていただいて置いているものもあります。

北澤教育長：市長、ちょっと併せて、今後のデジタル教科書の導入というか、その方法の中身について分かる範囲で。

奥田市長：ああ、そうか。デジタル教科書。ああ、なるほどね。はいはい。

松本学校教育課主幹：今年度12月に文科省のほうでデジタル教科書の実証授業をすることということで通知がございました。今後はそのかばんの荷物を少なくするという意味も込めて、テストケースで始めていくというものでございませぬ。ただ、ソフトランディングの始め方でございませぬ、全国の半数程度にそういった実証校を応募するという形でございました。これは学校での活用のみならず、ゆくゆくは家庭でもそういったものが見れる。ただ、こちらは家庭でのWi-Fi環境もありますので、こちらの課題は一つ大きなものではあるけども、そういったことも見越してできないかというようなことでの事業でございませぬ。城陽市については、こういったところに積極的に応募していきたいというところでございませぬ。

崎川教育長職務代理人：ありがとうございます。

奥田市長：確かに、崎川代理人が言わはつたように、城陽の小学校の子供たちはランリュック、軽いですよね。よその地域ではまだランドセル使っているところが。あれ、物入れなくても、ランドセル自体が重いので、あそこへ教科書入れたら異常なウエ

ートなので、今の説明にあったようにデジタル教科書とか、今後そういうふうになっていくのでしょうか。すごい発想やな。

大戸委員、どうぞ。

大戸委員：すみません。2点ほどあるのですが、1点は起動というかその使い方によるのですが、先ほどの映像見させてもらった中で子供らが試行錯誤して書いたり消したりしてすごいいいなと思う一面、それが保存できているのか。その何と云うのですかね。子供が考えてやったものをあとで見返したり、自分はこのときこう考えていたのだとかいうようなものが、やっぱりどこかで見れる場としてこの機能としていいなと思うのですが、それはやっぱり必要な部分も出てくると思うので、そういった場合に、紙で証明のところ書かせておられて残っていくとは思いますが、その残していくものと紙ベースとかこのデジタルの機能と今後どう進めていくのかなというのが1点と、もう一つは、あつては困るしないほうが絶対いいのですが、臨時休業とかになった場合にオンライン授業で学校とつながった授業ができていくのは一つ大きな柱になると思うのですが、見させてもらっていたら、今日見た授業の中でやっぱり子供たち同士のこの会話であったりつながりであったり、そういう集団という中での授業というのがあるので通信していく中で自宅にいる子供たちというか、そういう子供たちを前提とした何か授業もどこかで練習というか推進していくことも必要かなと思ったりしてるんですけどそのあたりの推進状況はどうでしょうか。

松本学校教育課主幹：2点伺っておりまして、1点目が、書いたものは残せるかどうか。これは残すことができます。ですので、デジタルポートフォリオというような形で、できれば全て残していけたら良いのではないかと。もちろん教科別や単元別でそういうノートと言われるもの、デジタルノートを作ることができまして、それに今回子供たちが書いたものを残していくことができます。もちろん写真撮影したものも残りますので、そういった例えば紙で書いたものも写真で撮っておいて、この単元のときにこういうふうな学習したよねとか、また自分はこんなふうには書いていたとかいうこともできます。先ほど体育の授業を見ていただいたかと思いますが、ああいう動画のものも残すことができます。もちろん提出もできますのでああいった動きのあるものも残すことができるので、非常に有効性があると考えております。今後はそういったところ、ノートといったアナログの部分もとっても大事ですし、直接先生が書き込んだAとか花丸とか、線引いてここがこんなふうにといろいろなものも非常に大事にしながら、そういうデジタルのところと両立を図っていったらということをございます。これは2月の研修会を実施させていただく際に、先生方にお伝えさせてもらって、両立を図りながら進めていただきたいというところをございます。

続いて、オンライン授業の件でございます。先ほど見ていただいた課題の配付、提出というものは、学校と自宅にいながらもその回収、提出が可能となります。また、始業式とか交流会での様子、あのような形をとることができて、会話もすることはできるのですが、やはり教室にいるときのような交流の仕方ではないので、できることはあっても、じゃあそれが効果的と言われると非常にちょっとやはりなかなか苦しいところがあります。子供の学びを止めないという視点で全く何もしないじゃなくて、一步でも二歩でもできる機能を使って授業を進めていく。会話をしていく。交流していくということは大事にできたらと思っております。また、先生方も動画を子供たちに配付したりとか、子供たちが動画を撮って自分のいろいろな様子を伝えたりとかということもできますので、そういった機能を上手に活用し

ていきながら、もちろんこれは発達段階や学校の実態にもよるかと思いますので、校長先生の方針に合わせて実施していただけたらと考えております。

奥田市長：今のお話を伺っていたら、私はもう何か今やっていることがそれはタブレットではそんなんできへんやろうと。大戸委員もそういう思いで御意見出されたのだと思うのですが、伺っていたら何でもできるみたい。可能性ってここはすごいやっぱ機能が集積されているのやなあと。ただ、あとそれをいかに使いこなすかというの。子供らは先ほどの話に戻るのですが、吸収は早いからできるしね。あと、指導者もやっぱり当然そこをマスターしとかなないとあかんし。すごいな。これ。小さいのに。子供らは上手に利用してくれたらいいなと思いますね。ただ、最終的に松本主幹からもありましたけど、学習等遠距離でも、会社の動きでももう東京集中から地方へ出て行こうというのは、これはオンラインでもいけるさかいにという動き出てますよね。ただ、それはいい面やけれども、やっぱり人間というのはやっぱり交流がないと、対面で話して顔見て話をするときようありますわね。私も今、そんなコロナの関係でいろいろな人とこの部屋でもやったかな。何回かカメラ通してあるのですよ。そしたら、一方的にこっちしゃべってるけど、反応がどうやら分からへんからね。そういう困ったときもある。そやけど、今の交流が濃くなると言いますか、こういう時代ですからどういうことでもやれることはやったらいいと思うのですが、やっぱりいいところは使って、そしたら人と子供たち同士の交流でね。それを続けてもらうというのが人間として一番の本来の姿やと思いますけど。どう言うたらいいのかな。やっぱり人が中心でという、そういうお付き合いが一つのツールとしてのそういう姿であったら。全てじゃないでしょ。何ぼ便利やから言うてね。我々は人間という動物で、社会生活を営んでる。しかし、すごい。聞けば聞くほど奥が深いです。また、他に御意見ございませんか。

岡田委員、どうぞ。

岡田委員：今、いろいろ聞いていてわくわくすることがいっぱいあるような気がするのですが今のところ学校に置いたままなのですよ。いずれ家に持ち帰りはできるようにする計画というのはおありなのでしょうか。

松本学校教育課主幹：こちらについては議論する観点がたくさんあるかなと思います。理想的には持ち帰って子供たちも自分たちで主体的にということでもありますけども、持ち帰ってどんなことをするのか。デジタルでないといけないのかという観点であったり、またはその家庭のインターネットのその環境について、これは一度整備してしまえばそれでいいというわけではなくて、やっぱり毎年毎年新入生が入ってくるわけですし、そういったところの制度設計をどうしていくのか。そういったところがやっぱり大きな課題にはなってくるのかなと。どのように使うのかということ、どのように環境を構築していくのかということについては、この2点は活用が進む中で議論を深めていきたいと考えております。

岡田委員：といたしますのが、今回このコロナでこういうデジタル化されて一番良かったのはペーパーレスになったというのが、もう紙に、私たちも教材で印刷をまったくしなくなったのですよね。前は休み時間のときに印刷室が込み合って大変なことになってたのですが今は一切もうなくなって、全部先ほど言ってみたいに配信して提出も全部インターネット上になってるのですね。やっぱり子供たちがよく言うのは、プリントをなくしたとか、どこ行ったか分からなくなったとか、もう持って帰って家の中でくしゃくしゃになっていたりとかするという意味ではちゃんとポータフォリオがあって整理でき、見やすいかなと。それからもう一つ、動画が録画されていて一番いいのは何回もくり返し見たりとか何回も確認できるというのがすごく

いい点で、やっぱり一回ですと頭に入る子もいればやっぱり子供たちによって学ぶスタイルが違うので、そういった意味では自分のペースで見直しができるという点がすごくいいと聞いたのです。学校の中だけではちょっとうまくいなくて、家に持って帰ってもう一回復習とかということであればすごく役に立つだろうし、例えば学校に行けないというような期間があったとしても、今現在不登校の子供たちやったとしてもこういうのを活用すれば教育の保障は受けられるかな。いずれそうならばありがたいなと思うのですがいろいろ克服しなければならないことがあるのも分かりますし、持って帰ったら壊しちゃったりとか行き帰りが多分一番、何か落としたりとかぶついたりとかあると思いますけれども何かいろいろ考えていただければと思います。ありがとうございます。

奥田市長：今のお話の中で、ペーパーレスのほうの動きね。こういう山積みにもうあったら、なかなか見るのも大変ですよ。いや、個人的なこと言いましたね。これ触ってたら、本来見たいものを探すのに、違う画面が最初出てきたら、そっちに興味があるのがあって、そっち見ている、それを見ていたらまたその画面でまた興味あるということありません。ほんで、俺何調べてたんやろと思って、それぐらい何か次から次へと展開があったりとか、それでいて関心・興味があるし、さっきの映像でも、子供たちが何か普通、皆さん先生やからいろいろ経験あると思いますけどその授業をやっていたら全生徒、子供が集中してこっちのほうを見たりとかしてないですよ。これやっていたらみんなこれ集中して、そんなイメージ受けたんやけども。これはものすごく効果的やないかなという感じはしますね。それで、おっしゃっていた不登校の子らでも、確かにこんなものすごく感心あるんやないかなと。人との関り、子供、生徒同士の横のつながりがうまいこといけへんとしても、ここでやったらいけるし、これをきっかけにまた復活してくれたらいいなど。その辺も研究してくれてはと思うけど。使用方法であったり。

松本学校教育課主幹：個別に配信することもできますので、先ほどの教室の姿は全員一斉にということやったのですが、この子にだけ送ってということもできますし、もちろん課題が早く終わった子、伸び残しがないようにすることもできますし、デジタルドリルも教室外でもできますので、いわば補充であったりとか補習であったり、また今の通級等でも活用が進んでおります。特別支援学級においては個別に特に特化してする必要があるので、こういった機能は本当に多様にできるということで、重宝されております。

奥田市長：これ見ている、その今子供でも授業をやる気のある子とない子がいるでしょ。これ通してやったらやる気出てくる。ちょっと甘い考え方か。どう思われます。何か集中しそうな気がするんやけどもね。

崎川委員、お願いします。

崎川教育長職務代理者：今の件に関してで、私の勝手な思いかもしれませんが、このコロナで仕事も減って人が来なくなって、私自身どっちかというたらひきこもりの気があるなと再認識したのですが、というのは、一日中事務所にいて不安も何も苦痛もないのです。じっとしていられます。中には人としゃべることが大好きな人がおられますし、それをやっぱり個性として見たときに、市長言われたようにこれがあることによってその子がひきこもりであっても部屋にこもって勉強する時間がたとえ30分でも延びてくれば、非常に有用性があるんじゃないかなというのを感じますし、また持って帰れなくても家庭によってはやっぱりパソコン、ノートパソコンでもいいですから持たせている親御さんもおられるでしょうし、何かログインパスワードとかアカウントを使えば、個人的にその授業に入れるのだとか

というような方法も配信で、タブレットでも入れますよというような方法がとれば、なお活用できないかなと今、ふと思ったものですから、またその辺も検討していただけたらと思うのですけど。すみません。

松本学校教育課主幹：授業での活用の延長で、家庭学習であったりとか個別の指導の計画の工夫というのがあるかと思しますので、授業の中身の充実をしていながら個別に対してどうアプローチすれば良いのか。そちらについても研究は進めてまいりたいと考えております。

崎川教育長職務代理者：よろしく申し上げます。

奥田市長：なるほどね。

大戸委員、お願いします。

大戸委員：水を差すような意見になるかもしれませんが長時間見ることが出てくると思うのですけどそういった場合に、昔、テレビ見てたら目が悪くなるよとか言われたのですけどこのタブレット使用を増やしていくことは、子供たちの視力とかそういったことには特に心配はないのかな。そのあたりはどうなのかな。

松本学校教育課主幹：こちらはデジタル教科書のこれまでの精度と多分同じ意見かなと。デジタル教科書はこれまで学習者用ですね。子供たち向けのものがほぼ整備がなかなか進まなかった原因で、授業時間内において半分、2分の1以下に抑えなさいと。それはもう視力が悪くなるからとか姿勢がとかということが原因だったようなのですけども、これは今後ちょっと撤廃していく方向であると。やはりどのぐらい見るのか。45分間の授業で45分間ずっと見続けるわけではないと。ただ、課題は姿勢であったりとか、また健康被害は今後もちろん起こってはくるだろうけども、そこはメリット・デメリットと言いますか、デジタル教科書を一切使わなかったら健康ですばらしくできるかと言ったらそうでもないというところでの、その文科省のほうでもそのバランスがやはり難しい。でもやはり、デジタル教科書であったりとかICTの活用というのは、単に機械を使いこなせて働き方改革とか子供たちも楽になるからではなくて、こういったいろいろなICTとかAIの機能を知った上で、じゃあ今後は自分たちはどのような社会を作っていくのかという未来を創造する人材づくりでもあるというふうに言われておりますので、そういうところに目を向けて、健康被害を無視するのではないのですけども、本当にあるのかどうかを実証研究していきながら進めていきたいということでもあります。もちろん文科省には今後、この端末の更新の際には本当に効果的であったか、デメリットで大きなものは何だったか。そういったところを見極めて今後の更新であったりとか活用については考えていきたいというふうに聞いておりますので、そういう観点で活用を進めるであったりとか、また健康被害等については留意していきたいと考えております。

奥田市長：とても重要なことやと思いますね。昔ね、テレビってブラウン管、あれ何て言うの。あれは前から見たら目が悪くなるって言われましたね。今の画面は何画面と言うのかな。何かそれはその目に対してはまだブラウン管のあの時代よりはいいと。そやけど、そんな絶対的にこんな長時間見ていたら、この距離でこんなやっていたら学校でこういう使い方をするというのは、先生がいろいろな指導できるやろうけど、家でiPad持っていたら、あんな集中しただけでと見てると思うわ。ゲームやっていたらおもしろいね。だから今、例えばコロナやったらこの部屋でも長時間会議するなど。換気が大事やと。庁内でも全部それ言うてるし、学校の先生も言うてくれてはと思うのですよね。当然ね。だから、学校でこのタブレットの使用のときには当然先生の配慮でちょっと窓の外、青空見ようという、1分か2分でもええやろうととか、そういうふうなので目が傷んでいるのを調整するとか、

こういうふうなのが直接関係なくても必要になってくるじゃないかと。それはまた一番大事なことやないかなと。そういうことも感じるように、大戸委員の御意見から私は思いました。それも確かに力つけてくれるのは大事なことやけど、逆にデータの結果出ていない、どの子か分からないけども、目を傷めるということも、これはちょっと問題やろうしね。その辺も研究してもらいながら時間的な配分もしてもらえたらなと思いますね。目のことは詳しく分からんけど。何かね。瞳孔じゃないけど、何か開いたままで緩くなってしまうとか。やっぱり遠くを見ろとか言われるしね。ありがとうございます。

他にございませんか。すみません。いっぱい御意見あると思うのですが、今の時期ですのもうできるだけちょっとここも一応換気はしているのですけれども、また個別な御意見がありましたら事務局のほうとか連絡いただきながら今後、このICT教育が城陽の子供たちに根づいて立派な成果を上げてくれたらいいなと思っておりますので、またその辺の御指導よろしくお願ひしたいと思っています。

それでは、北澤教育長、まとめというのは何ですけれども。総括をお願いいたします。

北澤教育長：いろいろと多数の意見賜りましてそれを参考にしながらまたプランを練っていききたいなというふうに思います。ICTも有効なツールというふうになりますけれども、万能ではございませんので、今日まで培ってきました血の通った教育といえますか、人と人とのつながりの中で培う教育を大切にしながらも、デジタル化社会に対応できる力をつけていきたいなというふうに思っております。あと1点、最初、市長のほうからまちづくり基金のことが出ましたけども、今、少子高齢化ということで、高齢というのは今50代あたりのベテランの先生がこれからどんどん退職、今もそうですけどもしていくと。少子というのは小さい子たちもそうなのですが、この前の成人式で会ったような二十歳過ぎの子供というのは随分と減ってきているということで、魅力ある職場、あるいは魅力ある職業でない限り、有能な人材が教師になってくれないという。そういった時代を迎えているのかなというふうな危惧を持っております。したがって、教師というのが魅力ある職業、職場であるということはこの城陽市から発信できればうれしいなと。施設整備もそうですけれども、教師にとって生きがいとなるような教育実践ができる城陽市の学校と、こういうことが実現できれば大変うれしいし、そのことが教師というのは結構ネットワークを持っていますから、広がっていけば山城地域全体もそうですし、城陽市の人口減少の対策にも一役買えるかなぐらいは大きく思っているところでございます。そういった意味で、まちづくり基金を使わせていただいたことも結果としては効果となって現れてくるのではないかなというふうに思っています。とりあえずデジタル化社会に向けての教育の出発点に今はあるという、そういった意味合いをしっかりと理解し、気合を感じ、また意欲を持って学校運営のほうをしっかりとサポートしていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございました。

奥田市長：ありがとうございました。長時間にわたりましていろいろ御意見頂戴いたしました。御協議いただきました。可能な限り本市の教育行政に参考にさせていただきたいと思いつつ、教育委員会の皆様とは連携・連絡を密にしながら今後とも会議を進めてまいりたいと思っております。次回の会議日程等につきましては、改めて事務局のほうで調整させていただきますので、またよろしくお願ひいたします。今日の会議について、一般的に事務局、何かあります。

藪内教育部長：ありがとうございました。今年度いろいろなまれに見るようなウイルスの

感染でこんなことになるとは夢にも思っていませんでしたけども、何とか1年を締めくくれるような時期になってまいりましたので、大きな転換点と今年はこのデジタルでなりましたので、来年度以降、これからまた予算査定残っていますけども、最終来年度の予算も先ほどの教育長の説明がございました輝きプランを実現できるように我々も努力してまいりますし、市長にも協力を求めながら来年度を迎えたいと思います。また、今年度多分もうこの日程では今年度はこの1回で開催できないと思いますので、次年度以降、またコロナの状況も見ながら皆様方にお集まりいただいて、また総合教育会議を開催していきたいと思いますので、またよろしく願いいたします。

奥田市長：それでは、これにて第1回城陽市総合教育会議を閉会いたします。御多用の中、今日はお集まりいただきましてありがとうございます。

(午前11時30分 閉会)